

Kakehashi いさはや

2022

Vol. 7

令和4年11月発行



自宅での暮らしを
みまも
看護するということ

最後まで利用者と家族に寄り添う ～訪問看護～

様々な方が自宅で療養するために、訪問看護を利用されています。
療養生活のなか、度々訪れる意思決定の場面でゆれ動く利用者・家族の気持ち。
その気持ちにどのように寄り添い、共に支える専門職とどのように連携し、最期を迎えるための支援をされているのか、訪問看護師の近藤祐子さんにお話を伺いました。

これからどう生きたいか～生きる希望を引き出す～



初めて利用者さんにお会いする時、まず「今一番したいことは何ですか？」とお尋ねします。すると、「旅行に行きたい・ペットと散歩に行き

たい・孫に会いたい」などいろいろな希望が出てきます。そして、その希望をどうしたら実現できるかを一緒に考えます。以前、難病の方で“娘さんの結婚式に参列したい”という思いを関係機関と協力して実現したこともありました。このことは、私たちの自信にもつながる出来事でした。

利用者さんの生きる希望を引き出し、実現していく。そのような関わりをしながら、最終的に家族が「家で看れてよかった」としてもらえるように、支えていくことができればと思います。

これからの経過を予測し伝える

看取りの時期に限らず、利用者・家族の意思決定支援の場面は度々あります。

訪問看護師は、利用者さんの疾患から、今後の経過を予測し、生活にどのような影響が出てくるのか、きちんとイメージできるように話をすることが必要です。例えば、トイレに行くのが難しくなってきたら…？歩行が難しくなってきたら…？など、具体的な対応策をいくつか提案し、利用者・家族に決めていただきます。また、話を切り出すタイミングもとても重要です。早すぎず遅すぎず、利用者・家族が自分のこととして受け止められる時期にお話することが必要となります。

お話をする際、「考えは変わっていいんですよ。変わった時は教えてくださいね。」と、必ずお伝えしています。どんな選択をされても対応できるように、他職種と連携し準備はしておきます。

直ぐに結論が出なかったり、決めることができなくても、利用者・家族の思いを丁寧に聞き取ります。そのようなプロセスを踏むことで、気持ちが整理されて、はっきりとした意思が芽生えることがあります。私たちが誘導することがないように、悩む・考える過程に伴走することが大事だと思います。

在宅医療になくてはならない存在

短い診療時間で患者や家族の思いを聞き取るのはなかなか難しいです。患者・家族が何に困っているのか、どうしたいのか、しっかりと意向を確認するように心がけています。しかし、数回の訪問でお看取りというケースもありますから、一緒に支えている訪問看護師やケアマネジャーとの情報共有、連携はとても重要だと思います。訪問看護師のみなさんは、患者の状態や家族の思いなど逐一報告してくれるので、そこからいろんな気づきもあって、早期に対応でき、非常に助かっています。また、訪問看護師に伝えたことは、ケアマネジャーにきちんと共有され、必要なことはしっかり動いてくれていて、いい流れができていっていると感じています。在宅医療になくてはならない存在だと思いますよ。



藤山循環器内科医院
院長 藤山 友樹先生

他職種の方も安心してケアができるように

共に支える他職種の皆さんとは日頃から話ができる、相談できる関係性を作っておくことが必要だと思います。

特に、看取り期の利用者さんについては、ケアマネジャーやヘルパーの皆さんは、不安に思うことがたくさんあるのではないのでしょうか。訪問看護師には他職種が安心してケアができるように、アドバイスをする役割もあると思います。

例えばケアマネジャーには利用者さんの状態に合わせたサービスを提供できるように、サービスを導入するタイミングなどお伝えするようにしています。ヘルパーにはできる範囲で清拭を

お願いしたり、清拭ができなくてもその日のご家族の様子を教えてくださいとお願いしています。

「何か気になることがあればいつでも相談してください」とお伝えして、利用者さんの状態が日に日に変化していく中で、できるだけリアルタイムでの情報共有ができるような関係づくりが重要です。

また、主治医には、利用者さんの状態の他にも、利用者・家族の揺れ動いている思いを伝えることもあります。主治医からの説明が必要な場合もありますので、細かに連絡・相談をしています。

『振り返り』の時間

利用者さんに、好きな食べ物は何か、好きな音楽や趣味は何かなど、その方がどんな人生を送ってこられたのか、ご家族を交えて、たくさんのお話を伺います。それは、利用者さんの価値観や一番大事にしていることに気づき、関係を築いていくためにも大切にしていることです。

亡くなられた後、「あの時こんな話をしましたね。」とご家族と一緒に振り返ることができます。いわゆるグリーフケアですが、「あの時間聞いた話、初めて聞いた話だった。聞いて良かったよ。」と言われるご家族もいました。生前にいろいろなお話をしていたことが、結果的にグリーフケアにもつながっているんだと実感した瞬間でした。

また、訪問看護師もご家族と話をしながら、自分の気持ちを整理します。経過を看ながら、

気持ちを整理していくのですが、利用者さんに気持ちが入る分、やはり亡くなった後の喪失感は大きく、ご家族と話をし、振り返ることが自分たちのグリーフケアにもなっているように思います。

ステーションでも、スタッフ間でその時の思いを伝えあったり、共有する時間を持つようにしています。訪問看護師にとっても、このように看取りを振り返る時間は、気持ちの整理ができるとても大切な時間なんです。



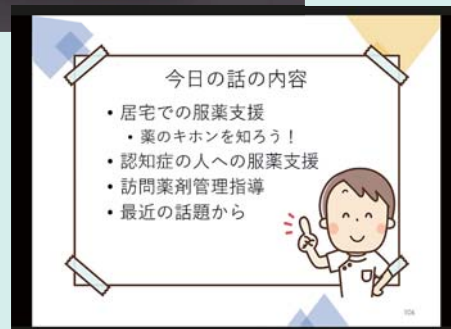
諫早医師会
訪問看護ステーション「たんぼぼ」
管理者 近藤 祐子さん

在宅医療・介護関係者研修会を開催しました

R4.9.16(金)

「認知症患者の服薬支援」

認知症の方の対応における2つの原則や、服薬に関する情報を多職種で共有すること、課題に対して一緒に介入策を検討することも大切というお話がありました。情報共有ツールとしてお薬手帳の活用も紹介され、学びの多い研修会となりました。



Information

第5回 在宅医療・介護関係者研修会 「ACPことはじめ ～リビング・ウィルから始めるACP～」

満岡内科クリニック院長
満岡 聡 先生

令和4年12月17日(土) 14時30分～16時30分
諫早市社会福祉会館
定員：50名

今回は、満岡先生を諫早市にお招きします！
グループワークもあり、ACPについて多職種で
一緒に考えてみませんか？
申込み方法など詳細はホームページをご覧ください。

在宅医療と介護の市民講演会

在宅医療ってなあに？ ～あなたを支える医療と介護～

令和5年2月18日(土) 14時～16時
いいもりコミュニティ会館

飯盛地域にお住まいの方を対象に講演会を
開催します。

三師会の先生方にそれぞれの分野から在
宅医療について、お話しいただきます。

update!

かけはしいさはやのホームページにある、在宅サービス等の情報を更新しています。
訪問看護ステーション・訪問介護事業所・小規模多機能居宅介護については、各事業所の
詳細情報を新たに掲載しました。ぜひ、ご活用ください。



諫早市在宅医療・介護連携支援センター かけはしいさはや

〒854-0061 諫早市宇都町29-1 健康福祉センター内
TEL: 46-3166 FAX: 46-3167
E-mail: isahaya.zaitaku.renkei@iaa.itkeeper.ne.jp
URL: <https://kakehashi-isahaya.com/>

